

授業タイトル：インターネットリテラシー教育

○設定

・学年：4年生

・地域の特徴

住宅、団地の多いニュータウンで、都心への交通の便もいいのでベッドタウンとしても活用されている。学区の6割以上が平成以降に開発されたマンション区域であり、住人は若い世代の核家族が多い。近年急激に人口が増えてきているため、学校の増設や小中連携が進んでいる。そのため学校の設備も新しい。

人口が多いため、国道沿いには大型のスーパーやホームセンター等が並ぶが、逆に個人経営の店舗は少ない。少し歩くと大きな運動公園があるが、それ以外には国道沿いの並木と学校や家の庭の樹木しか緑地はない。近所同士の交流は少なく、「隣人なき近隣 (Neighborhood without neighbors)」状態になっている一方で、家庭にはほとんどの場合web環境が整っており、保護者が通販やSNS、オンラインゲームなどを利用している家庭が多いようである。

・子どもたちの設定

35人学級、2クラス。男子19人女子16人。障がい、外国籍の子どもはいない。核家族で平均以上の所得がある家庭が多い。共働きの家庭が半数で、親が遅くまで帰ってこないため、学童保育を利用する子どもが3分の1程度。年度初めに保護者に向けてアンケートをとったところ、家にインターネット環境があり、すでに普段からインターネットを使っている子どもが6割を超えた。また、携帯電話の所有率も5割強にのぼる(「第1回子ども生活実態基本調査報告書」Benesse 教育研究開発センター(2005)によると、小4生で17%)。子どものインターネット利用を推奨する保護者が8割にのぼる半面、7割以上の保護者が不安を持っている。

クラスの間関係は、活発な子やおとなしい子など同士で集まったグループはあるが、厚い壁があるわけではなく、仲間はずれは見られない。プライベートでは携帯電話で連絡を取ることもあるようである。遊びの方法は、PSPという通信ゲームが流行っていて、公園や友だちの家でゲームをして遊ぶことがほとんど。女の子にはファッション雑誌を見始める子もいる。一方自分たちで遊びのルールを決めたり工夫をしたりして、遊びの幅を広げることは少ないように見える。

塾通いの子どももあり、成績は平均すると良い方であるが差も見られる。クラスには情報機器の扱いに慣れた子どもが4人ほどいて、モニトリアルシステム(助教法。多数の子どもを教えるために学力の高い子どもを教師の補助者として他の生徒の指導に当たらせるもの。)も期待できる。

○教師の問題意識

今日の情報化社会の発展に伴い、私たちは多くの媒体から国内や社会の情報を取り入れることが出来るようになった。それは私たち大人だけではなく子どももまた然りであり、インターネットなどを思うままに活用して情報を取り入れている子どもも少なくはない。

これから子どもたちが社会で生きていく上で、情報を自主的に入手することは望ましいことだが、不正なデータやポルノ画像など、好ましくない情報まで入手してしまうことも考えられる。また、本校の小学5、6年生における総合的な学習の時間において、インターネットを利用した調べ学習のまとめでは、ウィキペディア等の情報をそのまま引用したり、根拠がない不正確な情報をそのまま取り入れたりしたグループが多数見られたと報告されている。このように、情報を鵜呑みにしてしまうのでは、子どもたちの誤認を生む可能性もある。しかし、子どもたちの情報入手手段を遮断してしまうのは、子どもの自主性を引き出すという点からして望ましいことではないし、これからの時代ますます進展する情報社会にもそぐわない。

そこで今回の授業では、インターネットの利用法、有用性ととも、ひとつの情報に関して色々な見方があることを理解し、また、インターネット上にはプライバシーなどの問題や様々な悪徳商法などの危険があることを学び、安全に楽しくインターネットを利用しようという意識を高めたい。

○授業目的：生涯にわたりインターネットを活用するリテラシーの基礎を築くこと。

- ・インターネットを使って、必要な情報を検索出来るようにする。
- ・web サイトに発信されている情報の確かさを多面的に自分で確かめ、情報を比較し、吟味できるようにする。
- ・「ネチケット」と呼ばれるものがなぜあるのかを考え、誹謗・中傷や著作権を身近な問題として捉えさせる。
- ・インターネット上に潜む危険について認識できるようにする。

○子ども達の到達目標

(技術・理解)

1. Yahoo!キッズという子ども向けポータルサイトを使って情報検索ができる。
2. 収集した情報を、自分なりに分類し、ポイントを押さえてまとめることができる。
3. 画面に目を近づけすぎない、長時間連続使用しない等、健康に配慮した使い方ができる。
4. インターネットの記事を鵜呑みにせず、情報発信元や出典、最終更新日などを確認することができる。
5. 同じ内容について複数のweb サイトを探し、見比べることができる。

(思考・態度)

—メリットを考える—

6. インターネットの便利な点を挙げて発表することができる。

—デメリットを考える—

7. 懸賞、アダルト、金融、出会い、エステなど(有害情報)、小学生に有害な web サイトや、詐欺やウィルスの危険がありそうな web をみだりに開こうとしない。

8. 有害な情報の危険性などを挙げて発表することができる。

9. 誰でも自由に情報を発信できること、また、その匿名性から、不確かな情報が流れる可能性があることを指摘できる。

10. 実際に教師が作成した web ページから不確かな情報を指摘し、更新日時や出典などを確認することができる(社会科の資料の読み取りと関連付ける)。

11. 個人情報を必要とする場合や、その他不審に思うことがあった場合、教師や保護者に速やかに相談することができる。

—ネチケットを考える—

12. 教師が作成した web ページを見て、誤解される可能性のある表現や、プライバシー、著作権上の問題、また、公表されて嫌だと思える情報などを指摘することができる。

13. 掲示板やメールでの誹謗中傷を鵜呑みにしない。また、ブログや掲示板、メールなどへの書き込みで、そのような発言をしない。

○授業計画

授業回数	テーマ	各授業での子どもたちの具体的な達成目標
1	Yahoo! キッズを使って自由にインターネット検索をしてみよう。	・ブラウザ(IE)を立ち上げることができる。 ・自分ひとりでインターネット検索をして必要な情報を探することができる。 ・画面に目を近づけすぎない、長時間連続使用しない等、健康に配慮した使い方ができる。
2	インターネットの恐さを体験してみよう。(本時)	・教師の作成した web ページを見て、怪しい点を挙げることができる。 ・みだりに個人情報を入力することが危険であると説明できる。 ・個人情報を入力しなければいけないときや商品を購入するときは、必ず保護者または教師に相談できる。
3	プライバシー、著作権とは？	・教師の作成した web ページを見て、プライバシー、著作権上の問題、また、公表されて嫌だと思える情報などを指摘することができる。 ・個人情報保護法、著作権法について、なぜそのような法律があるのか、どのような法律なのかを自分の言葉でまとめられる。

4	たくさんの情報の中には間違っ た情報もある！？	・ネット上の情報は正しいものだけではないと知り、同様の情報を扱う web サイトを見比べることができる。 ・掲示板やチャットで、どのような文章が人を傷つけたり嫌な思いをさせたりするのか、発表できる。 ・掲示板やチャットで誹謗中傷を受けた人の気持ちを考え、自分だったらどう思うかワークシートにまとめる。
5	2 つの記事を見比 べてみよう。	・同じ内容について書かれた異なる 2 つの情報を見て、視点の違いなど思ったことを発表することができる。
6,7	テーマを決めて 情報収集しよう。	・インターネット検索を使って豊富な資料を集めることができる。 ・今まで習ったインターネットリテラシーを考慮して情報収集を進めることができる。(ワークシート等情報を記録する用紙に、出典サイトを記入したり、引用箇所をマークしたりする)
8,9	まとめた情報を 発表しよう。	・発表内容のどの部分を web サイトで調べたのか明示する。 ・情報の出典を書き出して、自分の発表に客観性を持たせることができる。

○本時の授業：上記の表の 2 回目の授業

○授業方法、本時の授業でのポイントや指導上の注意点：なぜ、その授業方法／教材などを選んだのか？

- ・PC ルームを使用し、1 人 1 台の PC でインターネット検索ができるようにする。また、全員が無理なくセンターモニターを見られるように座らせる。
- ・実際に子どもに PC を操作させ、web の危険性を体験させることで、子どもが問題をイメージしやすくするとともに、自分に関係のある問題として主体的に取り組めるようにする。
- ・今回の授業で利用する教材は、子どもが守られた安全な環境の中で危険を疑似体験できるように、教師が校内 LAN 内に自ら作成した web ページに限定する。
- ・web ページは子どもにとってハードルの低いデザインにし、安易な選択を誘う。
- ・トップ・ダウンで教えるのではなく、自分が被害者になったときのことを考えさせて問題意識を生むボトム・アップの授業をし、身近な問題だと思わせる。
- ・授業内では、web サイト、web ページ、ブラウザなどの用語は扱わず、子どもたちにとって慣れた表現であるホームページに一括する。

○本時の授業

流れ	内容	教師の動きなど	時間
導入	教師作成のホームページを見せる。 『小学生限定プレゼント！』住所、氏名、電話番号等、簡単なアンケートに答えることで懸賞に参加できるという架空のもの。 T.この前の授業でこういうホームページを見つけた人いるかな。前回の授業の後で先生が見つけたんだ。面白そうだからやってみようと思うんだけど、どう思うかな。 C.面白そう！やる！→展開1 C.そういうホームページは危ないって聞いたことがある。→展開2	PC ルームに着席したら、全員がセンターモニターを見ているか確認する。 児童がそれぞれどんな反応を見せるか見ておく。	5分
展開1	「やりたい！」という子の中から何人か指名し、住所や名前を打ち込んでもらう。他の子はセンターモニターで様子を見る。 T. 送信が完了したね。でも、ちょっとここにある規約を見てごらん。 (ワンクリック詐欺のように、同時に契約が結ばれている) C.どうしよう。 T.こわいね。でも大丈夫。実はこれ、先生がわざと作った偽のホームページなんだ。	自作サイトであることを展開2の前に知らせる。	5分 (導入と合わせて10分)
展開2	T.そうだね、インターネットは便利だけど、残念ながらいいことばかりではないんだ。今日はインターネットの恐さをみんなと一緒に考えていきます。 T.このホームページの怪しいところを指摘してみよう。周りの人と話し合って考えてみよう。 T.どんなことでもいいからセンターモニターを一緒に見ているお友達と、意見を交換しましょう。	・話し合いの最中は机間巡視。 ・発問ごとに意見を発表させ、ホワイトボードに書いてい	10分

	T.(補助発問)〇〇くんならこのホームページ見つけたらどうする？やった！と思って応募する？ T.(補助発問)応募したら本当に当たるのかな。 T.(補助発問)このホームページは無料なのかな。 T.(補助発問)さっきのホームページでは同時に違う契約をされてしまっていたけれど、他にはみんなの個人の情報がどんなことに使われる危険があるかな。 T.それでは、意見を発表してもらいましょう。 ... T.なるほど、たくさん挙げてくれました。これ全てに当てはまったらかなり悪いホームページですね。ちなみに先ほどのホームページは先生がわざとこのように作りました。悪い人のところに情報が行くことはないので安心してくださいね。 T.せっかくの素晴らしいインターネットで、どうしてこんな悪いことをするのでしょうか。悪い人の気持ちになって考えてみましょう。 T.同じように周りの人と相談しながらプリントに箇条書きにしましょう。 T.書けた人はプリントに書いたことをホワイトボードに書いてきて下さい。 ... T.発表してもらいます。 ... T.インターネットにはこんなに落とし穴があるんだね。では、危険を回避するためにはどんなことに気をつければいいと思いますか？ ... T.「もしかしたら」と思ったら、クリックする前に先生やお父さんお母さんに相談すること。取り返しがつかない事態にならないように、これだけ約束してください。	く。 ・期待した解答がなかった場合は全体に補助発問をして付け加える。 ・先ほどのホームページはこのような危険性を感じてもらうためにわざと作ったものだということを再度確認。 ・ワークシートを配る。 ・机間巡視 ・書いた子に発表させる。 ・その場で出そうなら挙手で。 ・出なければ最初の発問に対する回答に対応させて考える。	10 分 (プリント 6 分) (発表 4 分) 10 分
--	--	--	---

まとめ	T.プリントの「まとめ」のところに、今日の授業の感想や、これから気をつけようと思うことについて自由に書きなさい。 T.チャイムが鳴ったらプリントを先生のところに持ってきてなさい。	・センターモニターに、次回の授業で使うものも含めた web ページへのアクセス方法を表示する。	5 分
-----	---	--	-----

○評価：

- ・隣の人(センターモニターを共有する人)と、ホームページの危険性を話しあうことができる。
- ・インターネットを利用する上で気をつけることを発表することができる。
- ・ワークシートに、インターネットの怖いところや気をつけるべきことが記入してあるか。
- ・感想に、これからは気をつけたいという旨の内容が書かれているか。

○準備するもの

- ・ 305 パソコン室
- ・ワークシート人数分

○参考資料

○ワークシート案

名前

Q.このホームページから危険かもしれないと思うところを挙げてみよう。

予想される解答

- ・ホームページの説明や約束ごとなど、何も見ずに応募してしまう。
- ・無料でないかもしれない。
- ・個人情報を入力するので、悪い人がホームページを運営していたら悪用されてしまう。
- ・どこの企業がやっているかわからない。
- ・うそのプレゼントキャンペーン（プレゼント企画）かもしれない。

Q.なぜこのような危険なホームページがあるのでしょうか。悪い人の気持ちになって考えよう。

- ・インターネット上なら誰が悪いことをしているかわからないから。
- ・簡単にだませそうだから。
- ・懸賞と言えば個人情報を書かせても怪しまれないから。
- ・インターネットに慣れていない人を狙うため。
- ・インターネットは一人でやることが多いから、人に相談せずに応募してきそう。
- ・ホームページの説明や約束ごとを見ない人が多い。見つらい。

Q.危険なホームページから身を守るためには、どんなことに気をつければいいだろう。

- ・誰が立ち上げているかわからないホームページは信用しない。
- ・安易に個人情報を入力しない。
- ・「もしかしたら」と思ったら、クリックする前に先生やお家の人相談する。
- ・甘い言葉に誘惑されない。

【まとめ】感想、これから気をつけようと思うこと。